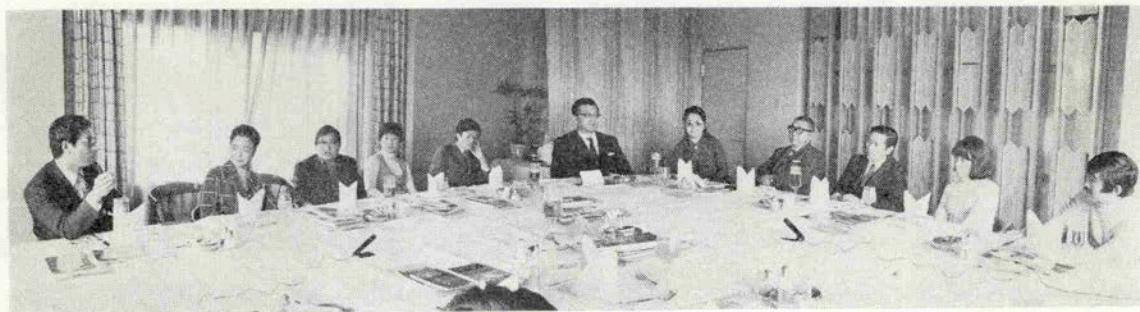


●神戸つ子10周年記念

ミニコミ特集② 全国ミニコミ編集者が語る座談会

タウン雑誌を創る



ゲスト 陳 舜臣〈作家〉

友田由美子〈東京・銀座百点〉

国分 綾子〈京都・きょうと〉

村山 竜朗〈東京・赤坂青山六本木〉

魚住 維迪〈博多・博多ばってん〉

田中 浩子〈博多・博多ばってん〉

薩 一夫〈札幌・月刊さっぽろ〉

兄部 建夫〈広島・る・もんど〉

金子 健樹〈金沢・おあしす〉

小泉 今月はお忙しい所わざわざご遠方からおいでいただき、本当に有難うございました。文字通り北は北海道から南は九州まで、日本各地のタウン誌の編集者の方々にお集りいただきましたので、いろいろなお話を伺わせていただきますと思います。

★土地の人が

ツィ・カーで読める雑誌

陳 タウン誌というのは街で遊ぶとかタウンタウンで遊ぶといったような性格のもの、つまり「平凡パンチ」的なものをいう用法もあるんじゃないでしょうか。

一度徳間書店が「タウン」という雑誌を出しましたが、一号か二号でダメになったことがありますね。アメリカのタウン誌と提携して横書きにし、工夫はこらしてあるんですが読みにくかった。タウン誌というああいう本のイメージが片一方にはあるのかもしれないね。

私の小説は神戸を舞台にしたものが多いんですが、原稿を書いておりまして、今はそんなことないんですがはじめの頃、三の宮へ主人公と女性が行ったというようなことを書きますと東京の雑誌社の編集部から電話がかかってきまして、三の宮とはどんな所か二行ぐらいいてくれないかという事を



陳 舜 臣 氏

いわれるんです。ところが銀座とか新宿、赤坂、六本木というような所だったら注釈めきでその固有名詞がつかえます。まあ大阪の道頓堀、心斎橋あたりまでですといんですが、三の宮ぐらいいだともう注釈がいります。三の宮はこういうような繁華街だとかバーがたくさんあるとか、そういうことを書かないといけないんですね。我々は書きたいことを書いているというのは口だけのことであって、物を書く時は常に読者のことを念頭において書かないといけない。そういうことを忘れると注釈なしの固有名詞がでてくるんです。

ところがタウン雑誌になりますともう注釈も何もなしで通じちゃう。だから範囲としては狭いけれども自分の仲間だけで物事を注釈なしにいえる、あるいは書けると

いう「心やすさ」があると思いますそれからもう一つ、タウン誌はよそから来る人の案内を兼ねているという点で水と油のような感じがするんです。というのはよく神戸を知っている人が「神戸っ子」を読む場合はツー・カーで通じるんですが、これがよそからくる人に神戸を紹介するという役割をも兼ねているのなら、又視点が全然違ってくるのでこれが今後のタウン誌の課題なんじゃないかという気がします。

★北から南まで タウン誌は花ざかり

小泉 それではここでお一人づつそれぞれのタウン誌のご紹介と生いたちなどをお話ししていただきますしょうか。

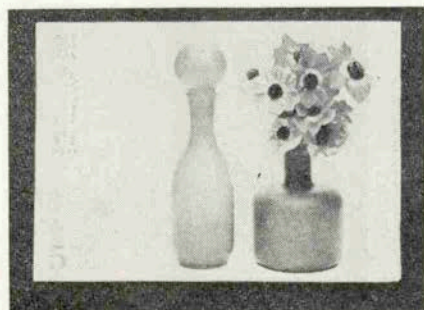
村山 「赤坂・青山・六本木」を出しています。青山が街らしくなりましたのは東京オリンピック以降なんです。それまでは青山という住宅地で商店は非常に少なかったんです。最近、青山にもオータクチュールだとかブティックとかいう店も増えてきました。しかし青山だけではちょっと足りないんで赤坂と六本木とを加えまして「赤坂・青山・六本木」と名づけたわけです。そうしてこの街をひとつファッションとブレイ、つまり六本木は遊ぶ場所も多いし、青山にはブティックもできはじめましたので、ファッションとブレイタウンというイメージをはじめに、おいて街づくりをしようと思い、五年程前に創刊号を出しました。

国分 「きょうと」を出しております。私の所は専任の編集員は一人もいないのですが、私は創刊以来ずっとこの雑誌の編集にたずさわっておりまして。「赤坂・青山・六本木」さんとは全く対照的で、京都は大変に古い都市でございます。この雑誌は京都の方が読むというよりもむしろ京都以外の方に読んでいただいて、京都をうんと知っていただくということが第一の目的でございました。

会員は京都の中の名流といわれる商店が百五十軒ばかりで「きょうと」を支えてくれています。京



友田 由美子さん〈銀座百点〉



都という所は非常に特殊な都でございまして、謙遜のようなおしとやかなような性格をもっていますけれども、心の中はじみな日本の古都の誇りを全部もっています。

みんな大変しんのある御主人が多くて、百五十軒のお店の中から十人たらずが編集委員という名前で出て下さっています。私が編集担当ということでもかならず十人の編集委員の編集会議を経て、その人たちの意向をくんで私が編集するということになっています。

ちょうど昭和30年だったと思いますが、「きょうと」をつくりました時は銀座百点さん以外はそんなになかったように思います。本を四角な形にいたしましたのも私のとこが一番早いんじゃないかと思っています。それからずっとそれを通してありますし、形もスタイルも

内容もそんなにかわっていません。その代り非常にハイカラになるとか発展するとかいうこともないんです。このように京都の特殊性を背負っている雑誌ということをご理解いただけたらと思います。

友田 「銀座百点」を出しています。土台になっているのは「銀座百点会」という会なんです。創刊は昭和三十年の一月号で、今年の七月に二百号を出します。百点会は銀座の中の老舗ですが、老舗の方たちがお店の中で横の連絡がないので親睦の意味をかねて何かの会をつくらうということでしたんです。最初百軒集まりましたので「銀座百点」という名前はある出版社の社長さんがつけられたんです。今は百四十三軒になってます。編集スタッフは素人の女性四人がつくっていて、素人であると

いうことが原則みたいになってます。「銀座」といえば江戸の面影みたいなものですがどうしてもありまじし、もと銀座にいらっしやった方が地方へ行かれたり、外国へ行かれたりしますと、銀座と聞くだけで大変なつかしくなるらしく北海道から九州まで、それと外国からの購読希望者もたくさんあります。私達もこれからの銀座をどうしていくかということが今後の大きな課題だと思っています。

兄部 私のとこの会社は広告代理店で、「広島島の観光」ができましたのが昭和三十四年ですが、広島といえはどうしても原爆のイメージがあり、若い人はどうもそれを避けたいがります。原爆で全部焼けたといってもまだまだ古い建物や変わらない美しい風物はあるわけですから、もう一度新しい広島島のイ



国分 綾子さん <きょうと>

メージを打出そうということで発行されました。「る・もんど」はまだ創刊以来二年ほどにしかならないんです。今まではスポンサーになってくれるお店がなかったのですが、お店とお買物に来られるお客さんとのルートづくりをしたら東京、大阪中心の流行を追うのをやめて広島自体の流行づくりや魅力づくりを試みたらどうかと思ってるんです。それとお店とお客さんとの距離をちぢめ、お店の情報を早く、おもしろくこういう雑誌を通してお客さんにお知らせしたいということで「る・もんど」が誕生しました。

ですが、市議員に落選した方が失業救済の意味で始められたらしいんです(笑) 責任者も何人か代わられたようで、私が担当した時は加盟店が三十軒ぐらいだったんですが、私は以前新聞社に長く勤めてましたので一週間ぐらいの間に加盟店を百ぐらいに増やすことができました。一時は百八十軒ぐらいにもなったことがあります。新聞記者時代は政治部とか社会部におりましたので、文化面の方はどうも苦手で、「財界さっぽろ」の方に自然力を入れてしまうようになりました(笑) 今スタッフは二十六人いるんですが、「月刊さっぽろ」やってるのはたった一人なんです。内容はほとんど地元作家とか随筆家に依頼して書いてもらっています。購読者は札幌を離れて各地方へ行かれた方々

から、札幌がなつかしいので雑誌を送ってくれという注文がよくきます。

金子 金沢の「おあしす」を出しています。皆さんの所とはスタートしたのがちょっと遅いので、五木寛之さんから原稿をいただいてつくりはじめ、一号を出してからやっと全国にこんな素晴らしいいろんな雑誌があるんだということを知りました。金沢はご存知のように古い百万石の城下町というイメージが強く、京都とは又別の意味で日本らしさの残っている街として知られています。かねてから何か一つ金沢を紹介できる雑誌がほしいと思っていました。金沢とか北陸は全国的にはまだ余り知られてなくて、金沢は富山県か福井県かごっちゃになってしまったり、裏日本という地理的なものがハン





村山 竜朗氏〈赤坂・青山・六本木〉

ディになったりしました。でも逆に「考える文化」という点では古い歴史をもっています。高い文化的な蓄積は以前からありますので、街づくりのうえでも文化的な面でも伝統に関する限り大きな蓄積をもっています。そしてその周囲には能登であるとか白山、立山越前海岸のような風光明媚なところがあり、表日本からはだんだんとなくなっていくつつある、自然の美しさとか人情の暖かさなどが残っています。ただ、北陸人はじみな方なんで、PRなんかは上手でもないし熱心でもなかったんです。しかしこれからはしだいに交通・通信も発達しますし、人々の心にも何かしら空虚さがあり精神的な砂漠が広がりつつあるように思いますので、私達は緑とか水とか味覚だとか、そういうものの

価値をもう一度考えなおして、名実ともに日本のあるいは世界の「おあしす」にしようじゃないかということでのこの名前をつけ、スタートしたわけです。金沢に住んでいる人に自分たちの街をよく知ってもらふことと同時に他から来る人のガイドブックにもしたいので、限られた予算と限られたページで少しでもそういう目標に近づこう努力したいと思っています。おかげ様でこれが刺激になったんじゃないかと思いますが、北陸三県でも後輩が同じような雑誌づくりをやってくれています。もっとこういう広がりをつくってあげば素晴らしいですね。

魚住 「博多ばってん」を出しています。博多拔店会というのは昭和三十一年に戦前からあった老舗の二代目の方が親睦の意味でつくられた会です。拔店会には研究部と事業部と編集部というのがありまして、それぞれ独自の動きをし役員は一応任期で選挙で代わっているんです。この雑誌は博多拔店会の中の編集部が「きょうと」と同じように編集委員を選んで企画や財政面をチェックし、私達が編集しています。

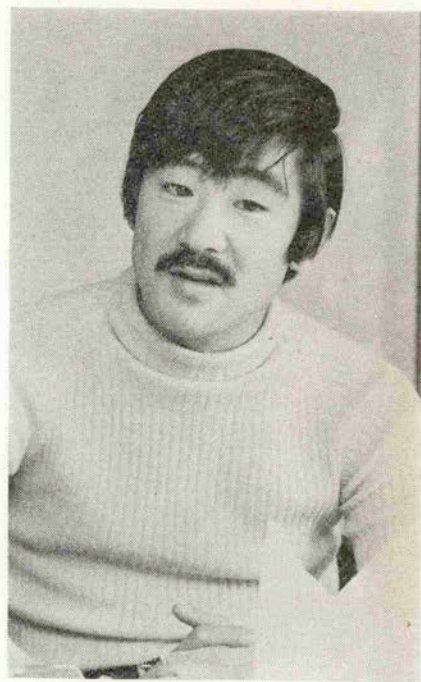
★稿料よくないと

PR誌には書きません

小泉 私の記憶では「博多ばってん」というのは出はじめの頃、確か火野葦平先生がずいぶん力を入れておられてスタートされたんだと思います。

田中 そうです。はじめは編集者というのは特別にいないくて、各店の編集委員の方が写真をとったり





魚住 維迪氏〈博多ばってん〉

してずい分苦勞されたそうなんです。今度新しくなつて、季刊誌ですが六十号がでたんです。

魚住 これは二代目の方が始められたんですが、実際には今は三代目の方に移つてゐるんです。そうするとお店の中でも二代目と三代目に断絶ができてしまつて、總會の時などけんけんごうごうなんです(笑)

兄部 私のとこなんかはその点やりやすいです。

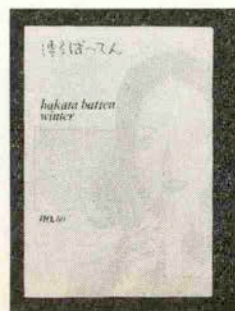
薩 「銀座百点」さんは百店会がバックにあるそうですが、スポンサーにお金を出してもらつてとやかかくいわれ、編集権を侵害されるのはイヤなんで、私のとこは独立した別の会社をつくつたんです。

国分 私は編集権の侵害なんて夢にも考えたことがありません。見識のあるご主人がいい意見を出し

て下さるとそのいいとこだけ生かし、衆智を集めて編集できますので私はあまりそういった矛盾は感じません。

小泉 京都の文化というのはやっぱり素晴らしいですからね。大阪に「浪花のれん」いうのがありますが、やっぱり裏にいろんな難しいことがあつてやりにくいつて聞いれます。やはりその街その街の背景がかなりあるようですね。「神戸っ子」が「きょうと」のような感じの本には絶対できないです。歴史的、文化的、地理的にも全然違いますからね。京都のような千年の古都の雰囲気は神戸にはちょっとありませんから。

国分 でもその雰囲気は逆に、年令の高いおじいさんやおばあさんの本みたいだというような声もよく聞きますので、若い、少しハイ



カラな要素を入れたいと思ひ何回も話合つたんです。そうしましたら、やはり京都は京都のイメージを大事にするのが私の本の本来じゃないかということに落着いたわけなんです。ですからまっすぐにそこへいつてゐるんじゃないくて何度か討論はしてるわけなんです。

魚住 ところで私のとこには読者の年令的な対象をしぼるのになにもめるんですが、その点いかがでしょう。

陳 ご年配向けの店もありますしヤング向けの店もありますからそれはむずかしいでしょうね。

国分 もう少し高い年令とか若い層とか、その焦点のみつけ方ですね。

陳 それから書き手ですが、地方にゐる人、つまり各地の同人雑誌なんかの人に書いてもらうのはど



薩 一夫氏〈月刊さっぽろ〉



田中 浩子さん〈博多ばってん〉

うですか。

小泉 「博多ばってん」さんは火野葦平さん、「銀座百点」さんは出版社の方、又金沢の場合は五木寛之さん、といったようにその地方のそれぞれの文化人の方々にお世話になったという例が多いようですね。

兄部 広島の場合は文教都市という事でいろんな文化人も多いんですが、ネームバリューのない方

にでも作家の卵をみつけてどんどん書いてもらうようにと思っています。

村山 私の所は中央文壇なんですが、有名な人はタウン誌にはものを書きませんで、もっと稿料のよい週刊誌や月刊誌からひっぱりだこなもので、なかなか書き手がな

いんです(笑)
友田 私、ある作家の方に原稿依頼して一度叱られたことがあるん

です。原稿依頼の時、自筆で手紙を書いて返信用の封筒も入れて送った所、電話がかかってきて「僕はよほど稿料がよくないとPR誌になんか書きませんよ」っていわれました。一介のタウン誌だということで大変くやしい気がしましたが、PR誌であるというハンディキャップもありますね。

薩 ところが、我々の街になりま

すといろんな三文文士が原稿をも

ってきてもってきで困るんですよ

(笑) とところで経営はみなどうな

ってるんでしょうか。

小泉 半分ぐらいはお店が中心にな

って発行されてますね。たとえば「銀座百点」さん、「きょうと」

さん、「博多ばってん」さんなど、

金沢さんなんかはやや離れた形じ

やないんですか。

金子 そうですね。こういうもの





兄部 建夫氏 くる・もんど



やっていく場合「さあ金ですから好きなものやって下さい」というようなスポンサーはまずないですし、いろいろとケチをつけられることもありまね。創刊号は若い人むけに金沢としてはだいたい思い

小泉 私の所は逆に「神戸っ子」が百貨会をつくりまして、百貨会に参加して下さいともっていった方なんです。

きった編集をしたんです。これからの消費人口はだんだんと若い人が多くなりますから若い人に喜んで読んでもらえ、納得してもら

金子 私の所もほとんど「神戸っ子」と同じです。

うようなものにしてもらうと思っています。又、お店とお客さんとが対話できる場をここにつくろうと思

村山 私の所も町に商店が少なかったものだから、先に雑誌をつくってから、赤坂・青山・六本木名店会というものを組織したんです。ですから街の組織づくりというものを最初から念頭においてやったわけです。

い、顔はむしろお客さんの方を向いているんですが、長い将来みていただくとかならずその商店にも

小泉 タウン誌もこの二、三年でずい分増えてきたようですね。

プラスになるということを私達は一つのセールスポイントにして

薩 北海道にも七つぐらいあります。

います。

小泉 東京にはずい分あるでしょう。

魚住 「神戸っ子」さんの場合はどうなんですか。

友田 東京だけで二百五十ぐらいあるんじゃないかしら。

陳 逆に、つぶれていったのも相当あるんじゃないですか。

国分 京都は三号ぐらいでどうしても育ちませんです。

金子 人口二、三十万以上の都市にはだいたいできてきたんじゃないですか。

陳 そうですね。それより小さい都市だと今度は地方新聞との兼ねあいでもむずかしい。

魚住 発行部数なんてみなどのぐらいなんでしょう。

小泉 各社さまざまでしょうがやはり「銀座百点」さんが一番多いでしょうね。

友田 約十万です。各加盟店への定数は一応五百になってますが、あとは追加という形で支店へ送ります。

薩 タウン誌をつくる場合はみんな「銀座百点」さんには聞きにい

くんじゃありませんか。お師匠さん
みたいなもんだから(笑)

★タウン誌の連絡協議会を！

薩 この機会に何かタウン誌の会
をつくらたいんじゃないでし
ょうか。どうでしょう。

金子 そうですね。みんなで情報
や意見を交換しあってレベルをあ
げていくようにできればいいで
すね。外国には再版といって、地方
で出したものが一度かならず中央
から全国へ紹介される機関がある
ようです。日本の場合、九十何パ
ーセントが東京から出るもので占
められてるでしょ。タウン誌の連
合のようなものをつくれれば全国に
多くの読者をもっていますので、
非常に強力な媒体になるんじゃない
かな。



金子 建樹氏〈おあしす〉

陳 新聞の三社連合のようなもの
ですね。

金子 それからタウン誌は往復効
果のある媒体ということがいえま
すね。読者投稿があったり、商店
主が顔を出していたりしていて街
と非常に密接に結びついた情報の
交換ができる。放送でいえば有線
放送のように、リクエストしてそ
れが放送されるといったようなね
ですからタウン誌は使い方によっ
ては非常に強力な媒体になりう
る。

陳 こういう各タウン誌を東京の
どこかにおいてもらったら。同人
雑誌センターというのはできまし
たからね。我々がどこか地方へ旅
行に行く場合、本屋で旅行のガイ
ドブック買いますが、私はあれは
あまり好きじゃないんです。それ
よりも神戸へいくんだったら「神

戸っ子」を読むとかする方が肌で
その街が感じられるんじゃないで
しょうか。ですから本屋の一つの
コーナーに全国のタウン誌をおい
てもらうようにしたらおもしろ
い。

村山 それと各都市のタウン誌の
編集部は全国のタウン誌をおくよ
うにしたらどうでしょう。私のと
この雑誌も神戸に三十人程読者が
いますので、私のとこの本をほし
い人は「神戸っ子」さんの編集部
までいけばよいというふうに……

いずれにしてもタウン誌の全国
連絡協議会のようなものがあつた
方がいいですね。

陳 今までの話を伺ってましてタ
ウン誌の発行もしんどいやろなっ
ていう同情を感じました(笑) タ
ウン誌は、街を知っている人じゃ
ないと寄りつけないような所もあ



るし、又それを他人にみせようという全然別の目的と二つもっていますからしんどいと思いますよ。余りむずかしい単語をならべないでいかに街の雰囲気を出すかということですね。余り啓蒙的になってもおもしろくないしね。

★こんなタウン誌を創りたい

小泉 今までのお話でだいたいタウン誌の三つの役割、すなわち、①その街の紹介 ②街の中でのコミュニケーションの場を提供する ③金沢や六本木のように街と密着して街づくりを考えていく、というこの三つぐらいの役割ができましたが、最後にお一人づつ今後の方針などをお聞かせいただきたいのですが。

村山 私の所は金沢さんのようにそういう雑誌がないから出すといふんじやなくて、そういう雑誌は別にうちが出さなくてもまわりにいっぱいあるわけですから、「どうしても買いたい」、「読みたい」という気を起こさせるような雑誌にしなければいけないんです。そのために常に何か新しいものを追求し、打出すようにしていきたいと考えています。

国分 私の方は雑誌が古い、懐古的だという声がありますので編集委員を二、三人づつ若い方中心に

代えていただき、若い方の発言を大事にしたいと思っています。それから京都ではコマージュなことを露骨に出すの嫌うんですが、私としてはもっと入れていかなければいけないと思うんです。生の形でなく京都を紹介すること自身がPRですから、みなさんの神経にさわらないような形でいれていきたいと思っています。

友田 銀座もいろいろ変化しつつありますので、その変化に対応し時代にマッチした雑誌づくりをしたいと思っています。今のところ七月の二百号を目標にして努力していますが二百一号からはまだどういふふうにするかは決っていません。でも今までのパターンはくずしたくないのでそのまま踏襲するつもりです。

兄部 東日本の中心が東京なら西日本の中心は広島というふうに、広島も若くなっていますので広島の「若さ」を雑誌に吹きこみたいと思います。まだまだ広島には一からやりなおそうという若さがありますので、一つのパターンにこだわらず「若い息吹」を打出したい。

薩 雑誌を通して北海道のよさを北海道の人にも再認識していただきたい。来年はオリンピックもありますし、北海道の札幌というものがクロージアアップされてきてい

ますので、それにふさわしいようなものになりたい。

金子 新しい金沢と古い金沢の一致点というか、対話の場としたいです。

それとあくまでPR誌であるというのを忘れないで、それをもりたててくれているお店をよくするように努力したいです。又地方の若いアーチストにも発言の場を与えたり、権威にべったりひっついていふんじゃないで、自由さと積極さをめざしてがんばりたいと思います。

魚住 「博多ばってん」の場合、ローカル色をなくすというか、もちろんいい面では残していかないといけないんですが、昔と時代も違いますので、若い人にうけるというか、喜んで読んでもらえる雑誌にしたいと思っています。今までは自己満足的な要素が多かったのでつくった方が喜ぶというよりも読んだ方が喜ぶといったふうにしていきたいのです。

小泉 どうも皆さんお忙しい所いろいろと有難うございました。これを機会にひとつよりよいタウン誌づくりをめざしてがんばりましょう。

(北野クラブにて)

★ ★ ★

10 周年記念

祝神戸っ子



神戸市長 宮崎辰雄



『神戸っ子』この雑誌が創刊されてはや十年。その名のとおり、神戸が目指す文化都市へのイメージにピッタリの雑誌であろう。創刊当時とは神戸もずいぶん変わりました。街は海に山に大きく鼓動しつつ広がっていく。青年の街・躍動の街・流行の街・いろいろとイメージが浮かんでくる、神戸はどこよりも住みよいわれらの故郷、明日に向かって生きている街。『神戸っ子』も新しい街の息づかいをどんどん紹介し、明日の神戸とともに歩んでほしい。



ニッケは英国を完全に越えました
最高級紳士服地

マグナル・タッシー

発売元

竹馬産業株式会社



カーナ
カーナ
カーナ

信頼のマーク

TOYOTA



クラウンでおなじみの

兵庫トヨタ

本社 神戸市長田区北町2丁目5

☎ 神戸(078)576-5051

あらゆる電化製品の
ショールームです



神戸

タタムショールーム

神戸市生田区京町78番地

T E L. 078 (39) 8 0 1 1



10 周年記念
祝神戸っ子



詩人 竹中 郁

神戸っ子が十年を迎えたとは少し驚いた。神戸という土地柄が今迄こんなジャーナリズムを育てたことがなかったのに、今度十年を突破する長生きな雑誌を持てたことは神戸を愛する人間としてまことに喜ばしい。フランスはパリ中心の文化国家のように見えるが、神戸と姉妹都市のマルセーユなどにもちゃんとした雑誌や新聞がでている。マルセーユに限らずボルドーにもリヨンにも立派な地方文化がある。神戸もぜひそういう都市なみの文化事業を育ててゆきたいし、それが神戸っ子の任務であろう。



ルネッサンス'71

大丸
神戸店

神戸市生田区明石町40
TEL (078)33-8121



さよならがいえない街

Santica Town
さんちかタウン

神戸地下街株式会社
交通センタービル8F
TEL. 39-4024
★
さんちか名店会
交通センタービル8F
TEL. 39-3965



あすのくらしをひらくそごう

神戸三ノ宮
そごう
神戸店

神戸市葺合区小野柄通8丁目23
TEL 神戸 (078)22-4181



10 周年記念

祝神戸っ子、

神戸青年会議所

理事長 木下 健



創刊十周年を心よりお祝い申し上げます。

国際色豊かな貴誌の「神戸っ子」は、国際港都神戸の政治・経済・文化、あらゆる分野で郷土神戸市の発展に力を注いでこられました。

私たち、神戸青年会議所も若い力を結集して、神戸の繁栄と市民の幸福を求めて、豊かな住みよい街づくりに積極的に取り組んでいます。

今後とも神戸市の発展のために、お互いに努力を重ねてまいりましょう。



大丸前

つや貸衣裳店

神戸市生田区三宮町3丁目18
TEL (33) 0360・7786

出張所 神戸市立勤労会館内 (34) 7975~8
出張所 県民会館内 (32) 2131
西脇店 西脇税務署前07952(2)4114
そごう店 神戸そごう4階 (22) 4181



クッキー



北 欧 の 銘 菓

ユーハイム
コンフェクト

■本社・工場・熊内店
神戸市葺合区熊内町1 (市立美術館東隣)
TEL 22-1164・9865
■三宮センター店
神戸三宮センター街(洋菓子・喫茶・レストラン)
TEL 33-2421・4314
■さんちか店
神戸三宮地下街スイーツタウン
TEL 39-3358

MAKE 春風のなかのあなたに…
UP TO ROYAL



めがねの御用命はお気軽に
神戸眼鏡院で御相談ください



神戸眼鏡院

元町3丁目 ☎ 321212 代表
さんちかタウン ☎ 391874~5

神戸っ子10周年ほんとに
おめでとう。わが子の成長
のように嬉しく思います。
創刊当時の三十頁ぐら
いの薄い雑誌から百五十頁近
い雑誌に育きましたのは大
変健康的な成長です。
神戸っ子の他にも私は全
国あちこちのタウン誌を手
にしていますがその中でも
群をぬいています。
また、神戸っ子を、神戸
を愛する執筆者の寄稿も多
く、それは幸せもの。こと
に小磯良平先生の表紙はな
にもものにもかえがたい有難
さ。今後とも皆さまの暖た
かいご支援をお願いしたい
ものです。

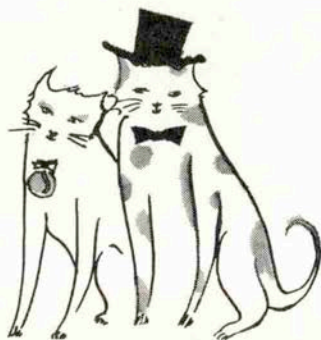


10 周年記念
祝神戸っ子

神戸百店会幹事
小林新二

KOBE SHIRT

春風のなかを神戸シャツで
おしゃれをすれば……



よろず御機衣縫上処

神戸シャツ

神戸店ー神戸大丸前 33-2168
東京店ー東急・日本橋店1階 211-0511内線219
東急・渋谷本店 4階 462-3433
広島店ー広島・福屋1階 47-6111内線333

GAUFRES

贈るよろこび
味覚の愉しみ



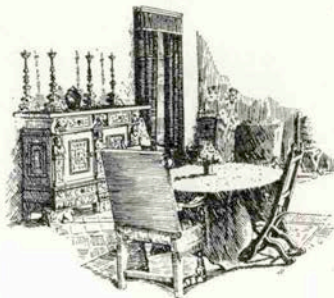
神戸にそだって 70年



風月堂

元町3丁目 TEL(99)2412~5
さんちかスイーツタウンTEL(99)3455

家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

神戸市生田区三宮町3丁目大丸前

TEL 神戸(39)3737(代表)

東京店・東急百貨店

日本橋店内1階 TEL 03(211)0511

本店(渋谷)7階 TEL 03(462)3180

工場 神戸市垂水区多聞町小東山975-35

神戸木工センター TEL(078)76-5005代

経済ポケット ジャーナル

★関西新国際空港予定地は
神戸ポートアイランド沖
が最適

関西新国際空港の建設地について運輸省は八つの候補地をあげ、騒音、投資効果、気象など幅広い調査を五つのコンサルタントに依頼していたが、一番基礎になる資料が得られると期待していた社会工学研究所が投資効率と将来の空港能力から「神戸ポートアイランド沖」を最適と結論、また日本建設機械化協会がまとめた工事施工計画調査でもポートアイランド沖は技術的に可能とのデータがそろ



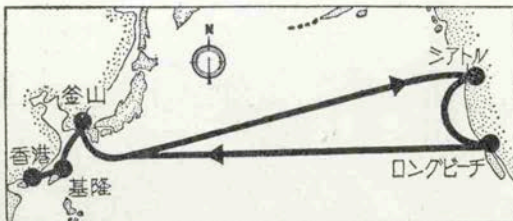
⑤がポートアイランド沖建設予定地



った。運輸省の計画によると、新空港は五十二年度スタートが目標で、最終規模が四千メートル滑走路と三千二百メートル横風滑走路をそれぞれ四本ずつ備えた二千ヘクタールの用地が必要。ポートアイランド沖だとこの用地もとれ、現在の大阪国際空港と併用することによって生じる航空管制上の制約も運用によって解消でき、最大能力を生かすことができる、としている。又騒音についても、ポートアイランド沖だと騒音の及ぶのは海上だけで、人口密集地帯には影響がなく、上空での待機中の騒音問題もほとんどないと結論がでた。

★川崎汽船が東南アジア太平洋沿岸コンテナに初名のり

川崎汽船は東南アジアの香港・基隆・釜山・シアトル・ロングビーチ間に今年十月から二週間間隔でコン



川崎汽船が予定しているコンテナ航路

テナ船を就航させる。

これは、ここ数年着実に経済発展し、貿易量でも対米輸出が一九六七年から三年間で約二倍にも伸びている東南アジア地域の貿易業者の要請によるもので、従来の輸送期間より平均五日

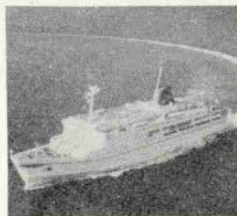
★KOBE オフィスレディ★



岡本の子 (20)

株式会社 三星堂受付

“神戸で一番の受付係になろう”とその心構えは筑豊という土地で培われた従順さの中に芯の強さがうかがえる。趣味は詩吟初段の腕前、そして時には説法を聞きに行くという。何かを学びとっているにちがいない……目の美しいお嬢さんだ。明石市在住 筑豊高校出身



新鋭高速船「ふえにつくす」

間短縮される。邦船がわが国に直接関係しない第三国航路にコンテナ船を投入するの初めてで、運輸省、海運業界など関係者の注目を集めている。

★新鋭大型自動車航送旅客船「ふえにつくす」竣工
三菱重工はこのほど新鋭高速船「ふえにつくす」(五、九五四総トン)を竣工した。同船は旅客一〇一〇名、トラック約40台、乗用車約11台を積載することができ、三月一日より京浜・日向間に就航する予定。



〈港〉と〈都市〉をしっかりと
つないだ街づくり——神戸の港湾
計画と都市計画は、海にのぞむ臨
海都市づくりのよきお手本；仲間
— Teacher & Friends です。

高松・広島・博多といった各都市
での、港の機能混乱による都市の
環境破壊の進行はまったく残念な
ことです。工業による海岸線の独
占が進行しています。海から都市
へアプローチしてごらん下さい。
その玄関口は、さんたんたる有様
です。〈港〉と〈都市〉の相互理
解が失われた結果でもあります。
その結果、海の広場を通じてのお
互いの都市のコミュニケーション
はとえています。

鉄道と航空路の発達には、都市の
視線をすべて、日本列島の中心
（？）——東京に集中させてしま
いました。そのなかにあって、海
の広場はお互いの都市を相互にネ
ットワークする場と可能性をもっ
ています。各々の都市の個性の相
互交流は多次元の価値と評価感を
育てます。〈港〉はまた、生活サ
ービスの基地でもあるのです。
〈港〉からの資源に情報加工をく
わえた繊維、雑貨、洋菓子などは、
その生活文化の成果品です。

〈水谷 顕介〉

街づくりの智恵の
コミュニケーションネットワーク ④

水谷顕介＋チーム・UR

画家大石輝一氏宅を訪ねて
神戸のモダンリビング

(48)

水谷顯介＋チーム・UR

人通りも少ない静かな住宅街に、ちょっと日本ばなれした建物が建っています。戦前は平凡な木造屋だったのを、画家であるこの家の主人が手づから造り替えていったのだとか。一階は喫茶店と焼物のお店があり、若い人達の集りのためにと集会室まで用意されています。二階は夫妻の寝室とアトリエ、ご夫婦二人きりのすまいとしては広すぎるこの建物も、すみずみまで手を入れられて、工夫されていて、どの部屋にも描かれている天井画や壁画はもちろんご主人の作、壁にノミで描いていった戦争と平和がテーマだという喫茶店の室内画は独特の雰囲気をつくり出している。ここのお客はほとんど常連さんで、しかも他の人に教えたがらないという、何かさわがしい新しさにふれられたくないような時間の重みがこの建物全体にただよっているような気がする。

時間がたてばそれだけプラスされる価値を生み出せるもの、そういうものがどんどん少なくなってゆく傾向の今日、まさしく画布の枠から抜け出してできた一つの作品といえるこのすまいは人々を包む空間として失いたくないものの一つだといえる。〈高月 昭子〉



全 景

2階アトリエへの外部階段



1階の居間がアトリエ兼用
になってしまった

